

## 第3回経営形態検討委員会意見概要

### 1 開催日時等

平成21年11月16日（月）午後6時から午後8時まで

### 2 場所

県庁講堂

### 3 内容

各分科会座長による分科会最終報告書の説明に対し、各委員からの質疑があった後、ポイントとなる3点（①県立病院の役割、②役割を果たすための持続的・安定的経営に欠かせない県からの財政支援、③医師をはじめとする人材の確保）についての意見交換を行った。

### 4 概要

#### (1) 分科会最終報告書に関する質疑応答

- 宮崎分科会では経営の自由度を高めるべきという意見が出たにも関わらず、現行形態の継続という結論は矛盾してないか。

⇒（回答）

経営の自由度という点から独立行政法人という意見もあったが、現行形態の継続でも、議会のチェック以外は自由度は変わらないし、現行での他の2病院との人材交流、医師確保などを優先すべきという意見であった。

- 女性が働きやすい職場環境について、延岡分科会以外では議論されたのか。

⇒（回答）

宮崎分科会では、専門外来や紹介外来に特化すれば、女性医師の負担軽減にもつながるという意見があったが、日南分科会では議論が出なかった。

- 3つの病院全体での経営形態をどうしたらいいかについての意見は出なかったか。

⇒（回答）

職員の勤務希望地が宮崎に集中しており、人材確保の面で3病院同じ形態とすべきという意見があった。

- 経営改善の見通しがポイントだと思うが、費用の面で人件費と減価償却費が大きすぎる点について議論があったのか。

⇒（回答）

いずれの分科会でも、人件費と減価償却費が経営を圧迫しているという議論があり、宮崎分科会では給与制度改革を行うなど収益性を向上すべき、日南分科会ではさらなる経費節減を図るべき、延岡分科会では医師を確保して収益を上げるべきといった意見が出た。

(2) 県立病院の役割に関する意見交換

県立病院の役割に関する意見交換を行い、

宮崎病院は、民間では不採算になるため担えないけれども、県においてなくてはならない医療あるいは三次救急医療、「がん」医療の高度の中核病院としての役割を、

日南病院は、ほかに代え難い病院であり、民間では難しい高度医療や重度の感染症医療あるいは小児医療、救急医療における中核病院としての役割を、

延岡病院は、県北の地域最大の医療機関として、救急医療はもとより高度専門医療等を提供して、地域の医療機関を支える後方支援病院としての役割を果たしていると結論づけられた。

(3) 県からの財政支援に関する意見交換

県民の医療を守るという点では県立病院は必要であるが、県立病院のある地域とない地域とではその恩恵に濃淡があり、県民にとって公平な財政負担となっていないという考え方もあるという点について問題提起があった。

(4) 医師をはじめとする人材の確保に関する意見交換

① 医師確保

- ・ 医師は田舎だから行きたくないというのではなく、どういうふうに働きやすい環境であるか、ということがポイントであり、大学と県と医師会はもっと連携をとるべきである。
- ・ 現在のような医療崩壊の状況では、国が制度改革をして、個人の意思の尊重を制限せざるを得ない状況になってきているのではないか。
- ・ 医師不足の原因は、医師の偏在（地域間偏在、診療科間の偏在）であり、若い医師を集められるよう大学を充実させることが大切である。
- ・ 医学部の女子学生も増えており、女性医師の働きやすい環境も整備する必要がある。
- ・ 国の制度改革を待っていても埒があかないので、現場と十分連携を図って医師の働きやすい環境整備を進めるべきである。

② 看護師確保

- ・ 若い人たちの意識が変わり、宮崎市内でなければ県外に出たいとの声も聞くし、勤務形態で病院を選ぶ時代となっている。
- ・ 奨学金制度の問題等で、医療従事者を目指す高校生等がなかなか県内に定着しない実態がある。

等々の意見が出された。